

報告・評価シート

【事業所名：ソーシャルインクルーホーム大垣静里町】

項 目	評価の視点	実地状況等【具体的な内容】	協議会委員からの要望・助言・評価		事業所 回答
			ソーシャルインクルーホーム大垣静里	全事業所	
1. 地域に開かれた運営	実習生やボランティア等の受け入れ	・受入人数：実人数		【要望】 ・実習生やボランティア等の受け入れ実績がない。今後も受け入れの機会を設け、地域で働く人材育成に関わる運営をお願いしたい。地域住民の方との交流の場の充実についても努めていただきたい。 ・ボランティア等の受け入れがないのはコロナの感染予防のためとは思いますが、感染防止に努めながら気軽に地域の方と交流できるレクリエーションなど取り入れ、地域に理解してもらい、災害等困ったときには助けてもらえる関係づくりに努めること。 ・実習生やボランティア等の受入について：コロナも五類となっている中、地域の施設、施設の社会化を意識してボランティアの受け入れ、交流の機会を計画的に設けてほしい。 【助言】 ・地域の行事に参加したり、広報紙を作成して配布したり、地域交流がもてる行事を事業所が企画するなど、地域住民に障がい者へ理解や障がい福祉サービスの理解を深めていけるとよい。 ・実習生やボランティア等の受け入れがないが、日常的にこれらの受け入れが難しい場合は、ホームのイベントなどにボランティアを依頼するなど、工夫をしていただくとよい。	【要望に関する回答】 ・今後はご利用者様のご入居が進んでいく際に、レクリエーションを行うことで実習生やボランティア等の方がご参加いただける機会を設け、地域住民との交流ならびに人材育成の場として提供していく環境を整えて参ります。 ・地域住民との交流は深い関係性が構築されていないため、ゴミ拾いや日常会話を始め、地域交流を行って参ります。 ・ボランティアや実習生の受け入れに関しては感染症の予防に努めながら交流の機会（行事等）をホームで把握の上、積極的な参加に努めて参ります。 【助言に関する回答】 ・地域行事にご利用者様と共に参加（行事等）することから、また当該ホームが率先して地域住民の方が参加できるレクリエーションを企画し、食品衛生上問題のない行事を行うよう努めます。 ・ホームで企画した行事にボランティアや実習生に参加いただくことで、人材育成と地域活動の参加に貢献できるよう努めます。
		0名			
		・実習等受入事例			
	地域住民との交流の機会の確保	・交流機会の事例			
		散歩の機会を設けて、ご近所の方と挨拶や交流を深めている。			
2. 短期入所の併設	地域で生活する障がい者の積極的な受け入れ	・利用者数			
		0名（大垣市の支給決定者）			
		・緊急受入人数			
		1名 （令和6年3月1日～令和6年5月現在）			
	緊急的利用のニーズへの対応	・緊急受入れの事例			
		主の介護者であるお母さまの緊急入院に伴い、ロングショートを受け入れ			
3. 支援の実施	利用者が充実した地域生活を送るための外出や余暇活動等の支援	・外出や余暇活動等の事例	【要望】 ・有資格者がいない。障害特性や支援技術を学ぶ研修の充実を図り、職員全体の専門性を高めることで、虐待の防止や利用者の満足度の向上に努めてほしい。 ・日中の支援において、「ゲームをしたり」（申請調書）となっているが、プログラムなどは組んでいないのか。組んでいないようであれば、個別支援と共に支援の全体プログラムも検討していただきたい。 ・支援の質を確保するために、障がい者の暮らしを支える協議会の研修への参加など、外部研修の受講も検討していただきたい。 【助言】 ・ホーム研修のほか研修機関等が開催する研修会等に職員を業務として参加させ資質向上を図るとよいと考える。	【要望】 ・重度化、高齢化等へのニーズについて重症心身障がい者も含めて受け入れた場合、緊急時に対応できる医療関係者を24時間体制で常駐させていただけないか。 ・医療的ケアのある利用者様の利用希望があった場合の医療支援体制を整えてほしい。体制が整っていないため、受け入れできないと断ることがないようにしていただきたい。 ・支援の質の確保について、県・市等が実施する様々な研修に積極的に参加して支援者の質の向上を図って欲しい。 ・スタッフの質の向上は大変重要だと思う。実施している研修の方法、内容等はもう少し詳しく報告していただけるとよい。（計画だけでなく、実績の報告を） ・強度行動障害のある方への支援について研修実施や受け入れ実施について評価させていただく。より一層の取り組みが進むことを望む。 ・苦情解決や虐待防止等の研修を計画的に位置付けて取り組みを進めていることは高く評価できます。特に虐待については管理者が日常の様子をよく見て、危機感をもって、職員の方の言動を見守っていただけることを望む。 ・コンプライアンスを遵守し、入所者の人権を尊重して運営いただくことを望む。 【評価】 ・体験的ニーズへの対応が積極的である。	【要望に関する回答】 ・強度行動障害支援者養成研修、介護福祉士資格取得推奨により、ホームの質の向上とご利用者様が安全にご利用いただける事業所として貢献して参ります。また職員の知識向上につながるため積極的に進めて参ります。 ・日中の支援に関して、ご利用者様との関わりの中で個々の計画書に則したプログラムを作成し、ご満足いただける支援の構築に努めます。 ・ホーム研修は毎月定期的に行っておりますが、外部研修の参加も考慮し、職員の知識・資質向上に努めます。 ・緊急時に対応できる医療連携体制を早急に図ります。 ・医療的ケアの必要にご利用者様には個々に訪問診療・訪問看護と連携を図っております。 ・支援の質の確保に関し、様々な行政の研修に参加することで知識のみならず、他事業所との関わりも深まることから積極的に参加して参ります。 ・強度行動障害の方への支援は研修を今後も受講することで質の向上に努めて参ります。 ・苦情解決や虐待防止等に関しては管理者をはじめ全社にて研修を通し、早期解決と発生防止に努めております。 ・コンプライアンスの遵守に関してはノーマライゼーションに則り、また会社規則にて徹しております。 ・研修は毎月、定期ホーム研修を動画視聴と職員の意見を自筆で本社に提出する研修を実施。7月は虐待防止・身体拘束等適正化研修を実施、ご利用者様が不穏になった際、職員がどのような対応をとることが必要かについてマニュアルに沿った意見を紙面にて提出することが定期的に行われております。
		朝の散歩や買い物同行			
		・取得した資格、参加した研修等			
		月1回のホーム研修を通じて、支援方法等職員と話し合いをしている。			
	支援の質の確保（資格取得・研修等）	・対応事例			
		介護福祉士を中心に食事介助であった方を自立支援に向けて自力摂取へ向上させた。			
	重度化・高齢化等へのニーズへの対応				

項 目	評価の視点	実地状況等【具体的な内容】		協議会委員からの要望・助言・評価		事業所 回答
				ソーシャルインクルーホーム大垣静里	全事業所	
	体験的利用のニーズへの対応	<div>・体験利用人数</div> <div>3名</div> <div>・体験利用の実例</div> <div>重度の方など、独自のトライアル1週間無料体験利用を行っている。</div>				
	日中、土日を含めた常時の支援体制の確保	日中2名以上配置をしている。				
4. 利用者の状況	利用者の障害支援区分	区分6： 1名	区分5： 1名	【要望】 ・利用者の障害特性：医療的ケアの必要な利用者が多く、どのような対応を講じているか、記入をお願いしたい。 ・新設ではあるが、定員の割れについてどのように考え、今後利用者確保のために計画について記載願いたい。	【要望】 ・医療的ケアが24時間必要な難病の利用者は多くても1名ぐらいで極めて少ない状況である。症状が安定している難病者も多いので自立への支援を積極的に行ってほしい。 ・医療的ケアの必要性、強度行動障害の利用者の実績が無かったり、あっても少ない。自閉症の強度行動障害の家族で困って見える方のニーズは多いと思われる。大変だと思うが職員の専門性を高めて対応できるように努めてほしい。 ・他の日中活動サービスを利用していない利用者さんに対しての充実した日中活動を行ってほしい。	【要望に関する回答】 ・日中サービス支援型が比較的重度の方向けのサービスとなりますが医療的ケアが必要な方に関してはホームの人員配置上、医療職がいらないため自己管理、もしくは訪問看護で対応できるか、医療職ではない職員でも対応できるかなるため、ご利用者様によって、その都度ご相談させていただきたいと考えております。 ・引き続き、関係機関より入居に関するご相談を頂いた際には適切に対応を進めていきながら、御助言頂いた取り組みを実施して認知度を上げていきたいと思います。 ・各ユニットを同時に開所した場合、職員の育成と御利用者様の受け入れを同時に行うため、事故や職員の退職等リスクが高いと考えております。そのため、1ユニットから開所させて頂いております。 今後の予定としては、10月1日より2階の住居追加を予定しておりますので、引き続き各関係機関等と連携を図っていききたいと思います。
		区分4： 名	区分3： 1名			
		区分2： 名	区分1： 名			
		区分なし：名				
	利用者の障害特性等	・医療的ケアの必要性 強度行動障害のある利用者の人数		【評価】 ・重度の方の受け入れもされており、今後も継続した支援をお願いしたい。		
		3名中 0名				
	他の日中活動サービスの利用	・他の日中活動の利用状況		【助言】 ・定員20名で開設されているはずであるが、申請調書には定員10名となっているのはなぜか。また、現在利用者は3名であるが、今後の利用者の増加のための方策はどうなっているのか。利用者支援のための安定した経営を行っていくためにも、地域の利用者確保に努めていただきたい。 ・開業間もないので、利用者が少ないようだ。今後も利用者数の伸び悩むようなら、地区社協の意見を聞くのもよいと思う。例えば、民生委員はじめ地域の方々の見学受け入れで知名度を上げるなど。		
		3名中 1名				
		・主な他の日中活動サービス利用先				
	空室がある場合（新設時含む）の対応	デイセンターあゆみの家				
・入居募集方法や申込状況						
	相談支援事業所への周知					
5. その他	運営の特色・工夫等	・設備面での障害特性等への配慮		【助言】 ・設備面での障害特性等への配慮について、バリアフリーのチェア浴を設けているのか。全館はバリアフリー対応となっているのが分かりにくい。	【要望】 ・多方面にわたり、様々な工夫がなされているようです。障がい者が暮らしやすい地域社会のために、尚一層のご尽力を期待する。 ・自己負担金の公平な配分を行っていただきたい。	【総評】 ・さまざまな工夫を凝らし、ご利用者視点で関わりを構築しておりますので今後も継続し、職員一同尽力して参ります。 ・自己負担金については重要事項説明書に記載されている通り御対応させていただきます。
		バリアフリー・チェア浴を設けている。個室。				
		・運営面での特色等				
		経験豊富な職員を配置して、職員指導・アドバイスをしている。				
	特記事項					
6. 協議会からの要望・助言への対応（2回目以降）	要望・助言への誠実な対応	・要望・助言の内容及びその対応		【要望・評価】 ・協議会からの要望・助言についてどのように対応していただけるかに言及していただきたい。		